

○ 寄席発祥の碑建立

平成生まれの寄席「天満天神繁昌亭」の先祖にあたる寄席が寛政年間（一七八九〜一八〇一）にあった。初代桂文治師匠が坐摩（いかすり）神社（通称さま神社）の境内に常設の小屋を建て、興行をはじめた。それまでの屋外の大道芸的なものどちがい、芝居、噺等じっくり聞かせるものになったと云うことを「上方落語寄席発祥の地」と定め、碑を建立し、10月19日めでたく除幕され、公益社団法人上方落語協会の三枝会長や春団治相談役をはじめ、多くの落語家が出席、上方芸能史研究家で元関西大学教授の肥田皓三先生が所蔵する当時の興味ビラも銅版としてはめられた。「生國魂（いくたま）さんの彦八さんの碑、高津さん（高津宮）の文枝さんの碑と並んで又一つ上方落語ゆかりの碑が出来ました。ここで落語会も開いてください」と先生のうれしいお言葉を頂いた。

場所は御堂筋の心齋橋と本町の間ぐらい。「南御堂」さんのうらにある。

○ 熊野と五代目文枝

熊野三山（熊野本宮、那智、速玉大社）や日本一的那智の瀧、熊野古道等が世界遺産に認定されたのを機に地元の人々から「熊野地域の落語を作ってほしい」との希望で我が師五代目文枝が「熊野詣」

という新作を創るため、何度も取材で現地を訪れた。「天下の文枝師匠が来られた」と高級のホテルや料理屋さんで接待しようという方々に「仕事とちがいまんがな、皆さんの常連のところで飲みまひよや」こんなおやじの人柄にほれ込んだ熊野の皆さんといひご縁が出来、落語の完成を記念して「道の駅 熊野川」に師匠直筆の「熊野川」の文字が入った熊野杉の立派な碑が建立され、その除幕式のある新宮市民会館で「熊野詣」を演じるはずが、今から七年前師匠は極楽名人会の巡業に出ってしまった。かわりに一門で和歌山出身の文福が代理出席し、相撲甚句で「文枝と熊野」を唄い、その後大画面で、師匠の「熊野詣」の映像を流した。それからこの地は一門の聖地となり、何度も訪れた。しかし、昨年九月の台風で、風景は見るも無残な姿に。道の駅の建物や売店もお気の毒にあとかたもなく流された。ところがこの碑だけは、奇跡的にもかたむいただけで残ったのだ。でもみんなで記念植樹をした碑のまわりも泥だらけ。

そこで一門が立ち上がった!! まず一月十九日、天満天神繁昌亭で「熊野復興祈願 文枝一門会」を開く。和歌山市出身の枝曾丸、田辺市出身の三歩等が出演。トリで紀の川市出身の文福が「紀州八代將軍吉宗公」を演じ、対談コーナーではきん枝を中心に「熊野と五代目文枝」について熱く語る。目玉はなんといつでも仲トリで文

太が演じる「熊野詣」一門で唯一継承している。さらに三月十六日には新宮市民会館で五代目文枝一門の総領、三枝が出演する「文枝一門会」これにあわせて師匠のご家族や後援会の方々、直系、孫弟子、スケジュールの空いてる者たくさんで観光バスでのツアーも予定している。「熊野三山」の参拝や台風被害の方々の地域を訪れ、「ボランティア寄席」もさせてもらうつもりだ。そんな様子を熊野三山の守り神やたカラスののって、師匠文枝が空から見ているかもしれない。

○ 「五代目文枝」の思いを語る、三枝が出版

七月十六日の「六代文枝」襲名を控えた三枝が、「五代目文枝」の本を出す。自身がきん枝、文珍ら直系と対談し、それぞれの「五代目文枝」を表現し、恩師に捧げる著書となる。三月十二日の繁昌亭での「五代目文枝一門会」での出版となる。

○ ぼんぼ娘結婚

文福門下の四番弟子ぼんぼ娘が、めでたく結婚した。花のお江戸の浅草で、コント、漫才、メイド漫談等で活躍? その後名古屋の大須演芸場で文福と出会い大阪へ。繁昌亭が出来て六年目、その第一号の入門者となり、共に繁昌亭と歩んできたが、その寄席をた

またま見た男性にみそめられ、めでたくゴールイン。11月3日の披露宴では浅草時代の師匠、東ゆめ子師匠や芸人仲間もかけつけ祝福立合人の文福夫妻も涙、涙。すぐ上の兄弟子まめだは、一番エピソードが多いのに何もいわず、いつも通りの皿まわしや南京玉すだれでお祝い。お相手は実印等を彫るハンコの職人さん。すでに下ごしらえもばっちり、お腹もポンポコ、来春には赤ちゃん誕生だ。

文鹿のクロンブ

落語家では私を含め、三喬師、伯枝師、文福師らが学生時代に柔道部の出身です。最近、縁あって香芝柔道クラブで小中学生の指導に当たっています。久々に柔道着に手を通し、帯のネームには『鹿』と刺繍してあります。もちろん小中学生には負けません、子供たちの言動には遠慮がない。『礼の作法が違う』だの『人の前を横切つてはいけない』だの『声が小さい』だの当たり前な事を小学生から注意されてばかり。どちらが指導者か判りません。キャリアを積んだら後輩には比較的自由がきく寄席の世界とのギャップを埋めることから始めなくては。:

文喬のぶんきょうチック

この前、成田空港近くの多古町という所に行った。品川で成田エ

文也の分野

私は子供が3人いる。一番下の高校3年の弁当づくりがとうとう年末で終わった。3学期はほとんど学校に行かないから弁当を作る事はもうない。春からは東京の大学に行くので弁当は要らない。考えれば上の子の中学入学以来毎日

クスプレスに乗り換えです。新大阪を出発して名古屋あたりで携帯がなった。でてみると、事務所からで、「免許証等の身分証明書を持っているか」とのこと。何故そんな物が必要なのか聞くと、成田エクスプレスは空港と直結していて、この特急を利用する人はほとんど海外へ行く人達なんやて。ですから改札口を出ると、出国管理官が待っていて、パスポートかその他の身分証明書を提示しないと出られないとのこと。私は車を乗る以外は免許証を家に置いている。その旨を電話で伝えると「それは困ったなあ。多古町の会場に行かれへんかもな」と困惑している様子。ないもんは仕方ない。何とかなるやろと成田空港駅に着くと、出迎えに来てくれた人が空港職員で、うまく裏口から駐車場まで案内してくれて、無事会場に行けた。出迎えてくれた職員「僕が来てなかったら、文喬さん成田空港から出られず、そのまま大阪へ帰らなければいけない所でしたね。」やて。JRも色々な駅があるもんでんな。

弁当を作り続け約12年間、延べ6千数百食の弁当を作り続けた計算だ。うちは妻と交代制で私は週4日担当だから約4千食近く作っている。いや待て、幼稚園でも作ってたから約17年間で延べ約8千食となり私は5千食は創ったはずだ。いやちよつと待てよ、落語家生活39年間で演じた落語の数をざつと数えたら弁当製作の合計に負けている。プロの落語家としての落語実演数より家庭での弁当製作の数が勝った、と言う事はこれはもうちよつとした弁当職人、もはや弁当のプロと言っても過言ではないのではなからうか。いやいや待て待て、しかしそれで報酬をもらっている訳ではないのでプロではない。では偉大なるアマチュアか。いわゆる天狗連、素人だ。しかし地方には、素人の癖してプロみたいな顔して金を取ってる素人落語連がいるので、何を持ってプロと呼べるのか定義が必要だ。まずは弟子となり修行し、世間で認められ各協会に所属し、寄席に出る事が必要か。しかし弁当に師は無く、全日本弁当協会もなければ弁当寄席もない。では作るか。いや作るほどでもないか。放つとくか。それほど威張る事でも無し…。と最後の弁当づくりを終えた後の感傷に思考が錯綜するある日の昼下がりがだった。

あやめの女王様とお呼び！

大阪なんばは千日前、昔懐かしいCMでもおなじみの「レジャービル味園」をご存知ですか？ 大宴会場のイメージが強いと思いますが、ココの2階が4、5年前から面白くなつてきてます。古いスナックなどを若い子が安く借り受け、ちよつと変わったもん好き、いわゆるアングラ系の若い子が集まる店がいっぱいできています。中にはライブスペースも2つあり、マンガ、プロレスなどのオタクなトークショーやお笑いイベントが夜な夜な開催されています。さて、その妖しい雰囲気ですっかり気に入った私は、この1月から毎週最終月曜に「女芸人キャバレーナイト」というイベントをやることにしました。

メンバーは妙齢女子ばかり！落語、浪曲、女道楽、手品、ものまねなど、あらゆる芸のエキスパートたち。女芸人と飲んでしゃべってショーを見て…胸焼けするよな魅惑の夜。接待、新年会、一門会などのお集まりにも、ぜひご利用下さいませ！

文昇問題 その一

昨年11月16日のことだ。11月の第3水曜日だ。お酒好きな方はお気付きたろうが、この日はボジョレー・ヌーヴォーの解禁日の前日だ。この日に酒屋の2階で催されている落語会に出していただいた。毎年、解禁日の前日に落語会

をして、酒屋のご主人がワインの宣伝をする。お客さんもそれを承知で、会の後購入して世界に先駆け、ボジョレーを楽しむそうだ。会の方は自画自賛だと言われるかもしれないが、盛況のうちに終わり、いよいよご主人が登場し、ワインの注文を取ろうとした時、お客さんの一人が倒れた。我々の熱演に興奮したのか、のぼせたのか、倒れた。救急車を待つ間、注文を取るのには不謹慎だし、お客さんの方も注文する雰囲気ではない。緊迫の中、救急車が到着した。担架で運ばれながら一言、「フィン2本くれ」と、その方が注文してくれていたから、場も和み、他の方々も注文が出来て、ご主人も仕入れたボジョレーが売れたものを、三方一両損ならぬ、ボジョレー損でした。皆さんも倒れる時には、くれぐれも気を走らせて倒れるように。

枝女太のちよつとちやうんちやう

ちよつと寂しかった。十二月三日、うちの娘が結婚しました。昨年の子供に続いてこれで二人の子供すべて片付きました。私が結婚したのは今から二十九年前、二十五歳になる年でした。その頃は夫が仕事があるわけでもなく、2DKの小さなハイツからのスタートでしたが、あまり将来に不安がなかったというか、若かったせいもあるんでしょうが、今年よりも来年、来年よりも再来

年はだんだん良くなる、大きくなれるというまったく根拠はないけれども、確信めいたものがありました。今はどうなんでしょう。先のまつたく見えない世の中、定職があつても十年後にはどうなつてかわからない。今の若い人たちは生まれたときからずつとそうなんでも慣れるのかもわかりませんが、家はちよつと寂しくなりまして。

坊枝の新婚日記

久しぶりにテレビの話がきた。近所の電気店が最新型のテレビを売りに来たのではない、出演のオファーで番組のサブタイトルが「貧乏芸人夫婦特集」漫才・新喜劇・落語のそれぞれの分野から二組ずつということだが、何人かの落語家が断つてうちに回ってきたらしい。

妻に相談すると「おもしろいやん出よう」ととても嬉しそうに言うので「かつこ悪いで、もう長いことしてると、それに月収も披露してくれ言うてるし」「何ぼでも局が言うようにしといたらええやん」との能天気な言葉に従い出る事になった。

USJに隣接するスタジオに入ると妻のテンションは最高潮に達し、収録が始まると何を見ても笑い転げ、MCの千原ジェさんが

珍しがって妻をイジリたおして、収録が終わると「奥さんおもしろかったですねー」「奥さんいいですねー」とスタッフが口を揃えて楽屋に言いに来た。

(芸歴三十年近い桂坊枝の月収は十五万で妻がおもしろい) 出なければよかった。

三風のさん風のたより

落語家になる前は専属司会をしていたが、久しぶりにある若いカップルの結婚披露宴の司会を引き受けた。

昨今は新郎のウエルカムトークがある。ちよつとヤンキーの新郎が「今日は笑い7感動3ぐらいで盛り上げたいと思います。よろしく！」と言うと、新郎の茶髪の友人たちが「ウオーツ！」と盛り上がった。

えらいとこへ来てしもた。オレは司会やから笑い7の担当や。こんな子らの笑いわからんがな。

披露宴のアトラクションでゲームコーナーが3つもあつた。(これが笑い7のようだ) 携帯電話が鳴った。新郎が電話して電話が鳴った人に豪華景品が当たるといふもの。出席者には「携帯の番号を入れ、マナーモードを解除して下さい」とお願いした。(こんな案内したん初めてや!) 披露宴らしくないが盛り上がった。最後は新郎が両親に感謝の手

紙を読む感動3のええシーン。ここでさっきのゲームで携帯の電源を入れっぱなしにしてたヤツの携帯が鳴りだした。(ダレやねん? こんなええシーンで) 出席者が顔を見合わせた。フツと見たら新郎のお父さんの胸で携帯が光っていた。

文太のむかし噺

や・宿替え

(その一)

むかし

ちよつとあわてもんの男が宿替えをした。

嫁はんは

「箒をかける釘

一本打って」と

頼まれ

壁に

八寸の瓦釘を

打ち込んでしまった。

「アホ。

隣に断ってきなはれ」

◇

「お宅に

釘は出てまへんか」

「藪から棒でんな」と

隣の住人。

「うちは

壁から釘ですねん」

男は

家に戻り

釘を打ち込んでしまった。

壁を叩いた。

「お仏壇が

ガタガタ

いうてるがな

えらいやつが

右隣に

宿替えしてきよった。」

(つづく)

枝曾丸のつれもてごり

年末の大掃除で一番の苦労が衣裳部屋である。

なんせ「おばちゃん衣装」の和装と洋装。そして普通の男の衣装

と3種類に分かれている。

取り分け、おばちゃん衣装はイ

ベントやTV出演用に5年前より

隔週に一度地元の婦人服屋さんか

ら提供してもらっているの、ど

んどん溜まっておよそ200着。

比較的地味なものは、母親にあげ

たりしているが、プライベートで

着れない分もつたない。

最近、ちよつとええ所用に「天

草四郎」みたいなドレスも買った

ので、これも幅をとる。

着物にしたつても黒紋付も男

用と女用それぞれ要る。また一重

に縞もそれぞれ。

そこに、普段着というから整理

するのは結構苦勞するんです。

これだけあれば普通の芸人の

何人分の衣装があるのだろうか?

・・・と思うがスケジュールの

埋まり方は、いつまでたつても半

人前。

昨年は私の愛する角界でうれ

しいニュースは新大関が二人続け

て誕生したこと。世間では久しぶ

りの「日本人大関」の誕生という

が、あえて「日本人」と付けるこ

とはない。琴奨菊関、稀勢の里関

共に横綱を狙える大器だ。特に稀

勢の里関は、師匠の突然の極楽場

所への旅立ちの辛さを乗り越えて

の大願成就。元横綱隆の里(鳴戸

親方)とは同学年の私にはショッ

クだった。

さらに落語界でも大きな悲し

みがあった。落語界の風雲児、天

才とうたわれた立川流家元、談志

師匠が、極楽寄席名人会の巡業に

出てしまわれた。マスコミなどを

通じて「毒舌」で怖いイメージを

もつた人々も多かったが、実際に

は気さくで優しくあたたかい師匠

だった。お弟子の快楽亭ブラック

師、立川談之助師の真打昇進の披

露に「友人代表」として口上でこ

一緒に並ばせていただき、浅草観

音裏の師匠行きつけの小さな中華

屋さんでのうちあげの時、その場

におられた皆さんの事を折り込ん

で河内音頭を唄つたら、最初師匠

は「何なんだ、こいつは…」とい

う感じでしたらけておられたのに、

唄いきると「お前、いい芸もつて

んな。仕事あるだろ!!」そして

帰り際、「わざわざ来てくれてあり

がとな!!」と手を握って下さった。

また、北陸の粟津温泉、法師の宿

での「立川談志・上岡龍太郎二人

会」に出して頂いた夜、ホテルの

カラオケスナックで、師匠と懐メ

口を唄いたおし、上岡師が踊ると

いうぜいたくな時間も忘れられな

い。

浅草東洋館で「一緒にさせて頂

いた時は、古今亭志ん朝師匠がお

亡くなりになられた直後で、談志

師匠は「二階ぞめき」を演じなが

ら、途中で「談志・志ん朝比較論」

を語り、演じ切った後、「おじかー

ん」ドロドロドロ、緞帳が下がる

のを途中で止めて、腕組みをして

「うーん、志ん朝はうまかったな

。まあ、いつまでもやつ事を

忘れないでいてくれや……」そこ

で幕。私は涙がこぼれそうだった

が、一門のみなさん、「くさいね、

どうも……」

いい思い出をありがとうございます

でした。そしておつかれさまで

した。合掌

ぼんぼ娘ピーのポンポコナー

浅草の芸人から落語家になつ

て14年目のお笑い人生だが、来年

初めて長期間のお休みを頂くこと

になった。廃業する訳ではないが、

結婚して子供が出来たので産休を

とることになったのだ。出産予定

日は3月23日。最後に仕事を頂い

ているのが2月5日で、その後体

調と相談して夏頃か秋頃に復帰す

る予定だ。約半年間、この世界か

ら離れる事に対して不安がないと

いったら嘘になるが、同門のあや

め師匠を筆頭に育児と仕事を両立

されている大先輩がたくさんいら

つしやるので、その点ではとても

心強い。もちろん休みをとる事を

許して下さいた師匠には本当に感

謝している。が、会う度に予定日

がずれて自分の誕生日である3月

31日に子供を出産するようにと

強要してくるのはどうかと思う。

もしかしたら生まれてくる子供に、

河内音頭の稽古をつけるつもりで

そんな事をいつているのか? 師

匠の真意はどうなのか? 修行の

足りない私には、全く理解ができ

なかった。

編集後記

今年はまだたいタツ年で、一門

元気に舞台タツ、場内わきタツ、

生活なりタツ、おまけに人気もの

ぼり龍、これで師匠の顔もタツ、

……お客は途中で席をタツ、んな

あほな!!

昨年は、日本列島、いや、世界

中大災害に見まわれ、大変な年で

した。今年には心から笑えるええ年

でありたいものです。我が一門に

とりまして、又、上方落語協会云

にとりまして大きな節目の年で

ございます。大名跡「文枝」が復

活します。我が五代目文枝一門、

さらに結束をかためて、「六代文

枝」のあと押しをするつもりです。

皆さんもなにとぞよろしゅうお願

い申し上げます。この号は、三月

末まで各地で配布させていただきます。

お寒い日々です。ご自愛下さい。

(文福)

文福のおいちゃんストーリー